

はばたけ！野田の空へ

「自然と共生する持続可能な地域づくり」のシンボル

コウノトリの関東地域における野生復帰にむけて



コウノトリと共生する地域づくり推進協議会
(千葉県野田市)

野田市では、2015 年度からコウノトリの試験放鳥をスタートします。
試験放鳥を通じた「コウノトリの野生復帰」について、その取組の概要をご紹介します。



なぜ「コウノトリの野生復帰」？

目的

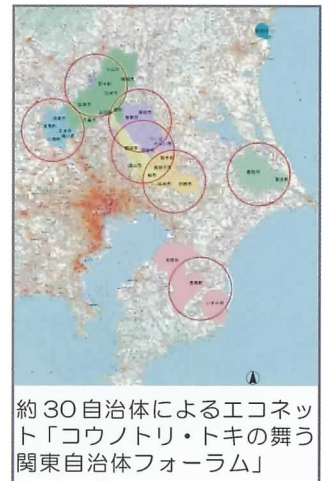
人もコウノトリも暮らしやすい 自然と共生する持続可能な地域づくり



水辺の生態系ピラミッド
(図出典：(公財) 日本生態系協会)

野田市では、“コウノトリの野生復帰”を通じ、生態系ピラミッドの頂点に立つコウノトリ“も”生息できる、我々人間にとっても大切な生存基盤である豊かな自然環境と地域の経済・社会との調和による「持続可能な地域づくり」をめざしています。

野田市の生物多様性だけでなく、多くの地域・主体と連携をはかることによる、江戸川、利根川、利根運河の各流域、さらには渡良瀬遊水地や印旛沼・荒川といった**関東広域における水辺エコロジカル・ネットワークの形成**へとつなげていきます。



約 30 自治体によるエコネット「コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム」



野生復帰の目標

■短期目標：2015 年～2017 年（平成 27 年度～29 年度）【試験放鳥期間：3 年間】

- ・市の飼育繁殖施設から巣立った幼鳥や、他施設から譲り受けた個体の計画的な放鳥を進めます。
- ・放鳥個体の江川地区をはじめとした野田市や周辺地域への定着、放鳥個体の野外でのペアリングを目指します。
- ・コウノトリの飼育・放鳥をきっかけとして、市域における環境保全型農業や環境教育・学習への気運の高まり、自然と共生する地域づくりへの関心・理解の深まりを活かし、野生復帰に関わる人づくり・連携協働による取組の推進を図ります。

■野生復帰への移行について

3 年間の試験放鳥によって、本格的な野生復帰に移行するかどうか検証します。

コウノトリに
会いにいこう！



毎年、春にはかわいいヒナに会えるかも！

「野田市こうのとりの里」 (野田市三ツ堀 369 番地)

市の“自然と共生する地域づくり”のモデル地区「江川地区」にあり、飼育しているコウノトリの公開、コウノトリ関係の展示を行っています。コウノトリを間近に見ることが出来ます！

【公開時間】 10 時から正午まで / 13 時から 15 時まで

【休館日】 月曜日・年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）

（ただし、月曜日が祝日の場合は翌日）

【交通】 東武野田線梅郷駅より茨城急行バスで「野田梅郷住宅」下車徒歩 10 分
まめバス南ルートで「しらさぎ通り入口」下車 徒歩 7 分 ※駐車場有

知ってる？

コウノトリ (Oriental White Stork) は、こんな鳥



大きさ：立っている時の高さは約 1 m、つばさを広げると約 2 m もあります。

体重：約 4 ~ 5 kg

体の色：つばさの色は白と黒、足と目のまわりが赤色、黒くて長いくちばしをもっています。

鳴き声：大人のコウノトリは鳴きません。

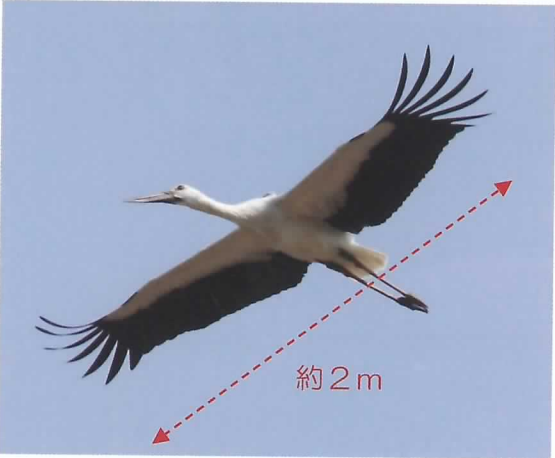
警戒した時などに、くちばしをカタカタとたたき合わせる「クラッタリング」をします。

食べ物：ドジョウ、フナなどの魚類、カエル、アメリカザリガニ、ヘビ、バッタ、トンボなど、田んぼや水路、河川、湿地などの水辺や周辺の草地にいる動物を食べる「肉食の鳥」です。

1日に 500 g 以上を食べる大食漢です。

見られる場所：田んぼ、用水路、河川などの水深の浅い水辺や草地で採餌し、木や電柱・建物の上、水辺などで休みます。

分布：ロシア、中国、韓国、日本など東アジア地域。ロシア・中国を中心に 2,000 羽ほど生息しています。日本では一度野生下で絶滅しましたが、2005 年に兵庫県で試験放鳥が開始され、現在、兵庫県豊岡市を中心に約 70~80 羽が生息、全国で飛来が確認されています。



首も足も伸ばして飛びます

(写真：(公財) 日本生態系協会)

コウノトリとよく似ているよ！

コウノトリと同様に水辺で暮らす大型の鳥には、サギ類やツル類がいます。ここでは、関東地域の川辺や田んぼでもよく見られ、コウノトリと間違いやすい大型のサギの仲間について、ご紹介します。



アオサギ

コウノトリより一回り小さいサギ。全体に青灰色で頭や羽の一部に黒いすじがあります。



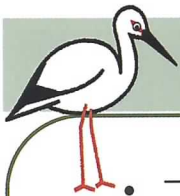
ダイサギ

コウノトリより一回り小さく、羽は白一色です。くちばしは夏は黒く、冬は黄色。同じ白いサギとして、チュウサギ(約 70 cm)、コサギ(約 60 cm) もよく見かけます。



飛ぶ時の姿勢のちがい

サギ類は、首を折りたたむように曲げて飛びます。



コウノトリをやさしく見守ろう！

- コウノトリを見かけても、おどかしたりせず、静かに見守ってください。
- コウノトリが自活できるよう、エサは与えないでください。
- コウノトリは他の多くの生きものと共存しています。コウノトリを含むすべての動物をあわせて見守ってください。
- カメラによる長時間撮影やストロボ撮影は、コウノトリに大きなストレスを与えますので、やめましょう。
- コウノトリを観察する時は、150mくらい離れて静かに観察してください。また、田んぼや個人のしき地に勝手に入ったり、路上に長時間駐車するなど、地域に迷惑をかけるような行為はしないでください。
- 放鳥されたコウノトリは、野生動物として自由に行動し、どこへ飛んでいくかわかりません。野田市をはなれて周辺市や遠方に飛んでいくこともあります。コウノトリの飛んで行った、その場所その場所で見守ってください。
- 放鳥したコウノトリが無事に暮らしていけるよう見守っていく予定ですが、それでも他の野生動物と同様、死亡することもあります。仮に死亡することであっても驚かないでください。

ご協力の
お願い

こんな時は、市までお知らせください！



コウノトリに対して、心ない行動をとっている人を見かけた時。
(※状況を確認の上、市で必要な対策をとります。)



コウノトリが弱っている、ケガをしている、少し様子がおかしい時。
(※状況を確認の上、市で保護等をおこないます。)

お知らせ頂く時は、「コウノトリの状況」とあわせて、「目撃した日時、場所」、分かれればコウノトリの足についている「足環の色」を、下記事務局までご連絡ください。ご協力おねがいします！！

メ モ	■コウノトリの状況	■日時	■その他
		■場所	

※「生息域内保全」：生態系及び自然の生息地を保全し、存続可能な種の個体群を自然の生息環境において維持し、回復すること。これに対し、飼育下で保護増殖することを「生息域外保全」と言います。

ははだけ！野田の空へ

「自然と共生する地域づくり」のシンボル コウノトリの関東地域における野生復帰にむけて



発行日：2015年7月

発行：コウノトリと共生する地域づくり推進協議会（千葉県野田市）

事務局：野田市役所 自然経済推進部みどりと水のまちづくり課

〒278-8550 野田市鶴奉7-1 ☎04-7123-1195/FAX04-7122-1558

編集：(公財)日本生態系協会